

◆募集人員：20名様 ◆旅行代金：2泊3食付き ¥143,900 (予定) ◆旅行日程：2021年10月1日(金)～2021年10月3日(日)

日数	月日(曜)	予定
1	10月1日(金)	伊丹空港発8:20 秋田空港着10:20 秋田市内にて昼食11:45 NPO法人白神ネイチャー協会(植樹)13:30 ホテル到着18:00 (十和田ホテル泊) 四季折々の自然を演出してくれるぶな林に囲まれた当ホテルは十和田湖西湖畔の高台に位置し、すべてのお部屋から十和田湖がご覧いただけます。秋田杉香る本館和室は宮大工の技法による本格的な日本建築、シンプルなデザインの別館はすべて洋室タイプです。お食事は地元素材を盛り込んだ旬の味覚をお楽しみ下さい。
2	10月2日(土)	十和田湖休屋港着8:45 子ノ口港 9:35 十和田周辺(散策・昼食)12:00 奥入瀬溪流(散策)12:30 八甲田ロープウェイ14:15 ホテル到着16:45 (南部屋・海扇閣泊) 雄大な浅虫温泉海岸を一望出来る大展望浴場と展望露天風呂を併設し、眺めのいい温泉醍醐味と民芸調現代和風をテーマに大宴会場をはじめ、客室・コンベンションホール・二次会処と洗練された豪華で優雅な個性あふれる魅力の館内は訪れるお客様にきっとお気に召していただけるものと確信しております。各お部屋には「堀ごたつ」のスペースがございます。
3	10月3日(日)	ねぶたの家フラッセ9:00 三内丸山遺跡・青森県立美術館 10:00 青森市内(昼食)11:15 青森空港発12:40 伊丹空港着15:20

編集後記

今期の「てるびっと」はコロナ禍により研修旅行をはじめ全ての活動がストップした中、密を避けるため役員を分けて取材研修を行い、その成果の発表となりました。メンバーは久々の活動に意欲的に取り組み、結果を文章に纏めました。コロナ禍に負けない京都の取材地の力強い発信力に改めて感動させられた取材研修の編集でした。(岡野路子)

海外研修KYOのあけぼの会 ご入会をお待ちしています  
年会費 3,000円(4月～翌3月)  
ご入会のお問い合わせ・申込は <http://kyo-akebono.com/membership/>  
または TEL 075-761-3401 事務局 岡野

2021.3 発行 / 海外研修 KYO のあけぼの会  
〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町85番地の4(岡野組内)  
TEL 075-761-3401 FAX 075-752-3034 事務局 岡野



男女共同参画に積極的にご参加の企業様に協賛をいただいております。

# てるびっと

No.27 2021/3



海外研修KYOのあけぼの会

表題「てるびっと」はインドネシア語(京都府友好国)で「あけぼの」の意味です。京都府の花「しだれざくら」木「北山杉」鳥「オオミズナギドリ」をモチーフにしています。

## はじめに



海外研修KYOのあけぼの会  
会長 田中 田鶴子

### ご挨拶

会員の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。平素より海外研修KYOのあけぼの会の活動にご理解とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

2020年はイタリア・フィレンツェへの自主研修が決定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、

やむを得ず中止となりました。今年度の研修をどのように行うか検討した結果、もうひとつの京都「森・海・お茶・竹の里」の京都を代表する観光地を訪ね、SDGsの観点から取材研修を行うことといたしました。

SDGs「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」とは、2015年に国連サミットで採択され、2030年までに持続可能でよりよい社会を目指す世界規模の開発目標です。地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っており、行政や民間企業をはじめ日本全体で積極的に取り組んでいます。

取材では、京都観光における持続可能な営みを、現地の方々からの貴重なお話しや体験型観光で体感させていただきました。それぞれの土地の豊かな景観や歴史、伝統文化を守りつつ、それらを活かして観光客を誘致する四季折々の工夫やおもてなしが感じられ、地域社会と観光が共生するサステナビリティ (持続可能性) の高い取り組みに感動いたしました。

一方で少子化・高齢化が進み、未来へ引き継ぐ人口が減少しつつあることも事実であります。社会が激しく変化をしていく中でも持続可能な発展をし続けていくためには、オール京都で知恵と工夫を出し合い、日本のみならず世界に発信していくことが大切であると強く感じました。今回の成果は、本機関紙「てるびと」に掲載いたしておりますので、ぜひご一読ください。

最後に、当会は1989年の設立より、地域社会活動のリーダーとしての資質向上や、女性関係団体相互のネットワーク作り、さらに国際交流の促進をめざして活動を続けてまいりました。その間にも女性を取り巻く社会環境は大きく変化し、組織や社会の発展には女性の活躍が不可欠とまで叫ばれる時代になりました。今後とも当会は活動を通じて、京都府が推進される共生社会の実現の一助を担うべく、歩を進めてまいりますので、会員の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。



京都府府民環境部副部長  
木村 真子氏

### ご挨拶

「海外研修KYOのあけぼの会」の皆様におかれましては、京都府政の推進に御理解と御協力を賜っておりますことに、心よりお礼申し上げます。

さて、1月13日には新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が再び発出され、当初の期限も延長されました。

外出の自粛、イベント等の開催制限等に御協力頂いております府民の皆様や事業者の皆様、そして、府民の命と健康を守るために昼夜を分かたず御奮闘いただいております医療従事者をはじめ全ての皆様に、心から感謝と敬意を表します。

新型コロナウイルス感染症の影響は、新しい生活様式に適應することが求められています。他方、バーチャルではなく直接触れる「本物」には格別の感動や魅力があることや、絆やつながりが貴重であることが強く認識されました。

今年度貴会におかれましては、まさに未来を見つめて「ポストコロナの新しい京の旅」をテーマに、「海の京都」「森の京都」「お茶の京都」「竹の里乙訓」を取材され、京都府内の観光資源を改めて発見いただくとともに、地域の方々によって守り育てられた文化を御紹介いただきました。

「海外研修KYOのあけぼの会」の取組が、地域における女性の活躍を先頭に立って牽引いただいていると、改めて確信させていただいたところです。

昨年末、国において「第5次男女共同参画基本計画」が策定され、京都府におきましても、「KYOのあけぼのプラン (第4次) ー京都府男女共同参画計画ー」を今年度中に策定いたします。人生100年時代の到来、働き方改革、デジタル化の進展など新しい時代に対応した施策を推進してまいりたいと考えておりますので、引き続き、皆様方のお力添えをお願い申し上げます。

結びにあたり、「海外研修KYOのあけぼの会」のますますの御発展と、会員の皆様の御健勝を心より祈念申し上げます。

## 第32回 KYOのあけぼのフェスティバル2020

日時：令和2年11月21日 9:00～13:00 場所：京都テルサ

### 主催者挨拶

京都府知事 西脇 隆俊氏  
KYOのあけぼのフェスティバル実行委員会委員長 田中 田鶴子

### 京都府あけぼの賞表彰式

### 講演「ダチョウに魅せられて」

講師 京都府立大学 学長 塚本 康浩氏

2009年に猛威をふるった新型インフルエンザでダチョウの抗体入りマスクが空前のヒットとなり一躍注目されたダチョウの卵。花粉症やアトピーなど様々な新薬も日々研究をされておられます。WITHコロナ時代に必要な独自の感染症対策など素晴らしいご講演をいただきました。



## 2020年度自主研修

「未来へ続く地域に根付いた持続可能な営み」

研修先：京都府下 森の京都・海の京都・お茶の京都・竹の里乙訓 4か所

2020年度は当初イタリア・フィレンツェへの訪問が決定しておりましたが、新型コロナウイルスの世界的な感染により、やむを得ず中止となりました。そのような状況下で、今年度の研修をどのように実施するのかを検討した結果、「ポストコロナの新しい京の旅」ということで取材研修を行うことにいたしました。

森の京都・海の京都・お茶の京都・竹の里乙訓の4グループでそれぞれ数人での取材研修を実施しました。取材を通じて4つの京都全てに共通することは、それぞれの土地の豊かな自然景観や歴史や伝統文化を、地域の方々が誇りをもって大切に守りつつ、新しい時代にマッチした取組みがなされている事で、そのことに私たちは感動しました。一方で少子化・高齢化が進み、未来へ引き継ぐ人口が減少しつつあることも現実です。そのような中でも、観光だけではなく、京都の長い歴史の中で連綿と続いてきた生業 (なりわい) が、時流にあらがうことなく知恵と工夫で今様に運営されていることが持続可能な発展につながっていくと確信しました。これは、とりもなおさず国連の推奨する「SDGsの持続可能な営み」を目指す取組みにほかなりません。京都府が推奨する4つの京都は、日本のみならず世界の方々にも発信したいと強く思いました。

## 「海の京都」 丹後半島 豊かな海と共に生きる

取材メンバー：田中 田鶴子・岡野 路子・石村 芳子・梅谷 康子・藤田 美代子・山科 昌子  
実施日：2020年12月2日 文：山科 昌子

日本海に面する京都府北部地域は、豊かな自然と海の恩恵を受け、古代より大陸との交流の窓口として栄えて来た。近年は、京都縦貫自動車道や舞鶴若狭自動車道の開通で観光客が増えた。コロナ禍で海外からの観光客が皆無になった今、この豊かな資源である「海」を生活の中心に置いている人々を訪れSDGs→持続可能な循環型の生活様式に視点を当てたお話を4人に伺った。



### ＜久美浜 美しい湾と歴史ある街並み＞

支配者や豪族が存在し、戦国時代や城下町の面影が残るこの地に建つ如意寺（奈良時代建立1300年続く）を訪れ、お話を伺った。友松祐也ご住職は二十二代目。教育者として人材育成された後、布教と地域の特性を生かした持続可能なまちづくり運動の中心として活動されている。

### ▶次世代を担う若い人の仕事（定住の為に）

豊かな自然、景観、食材等が大きな経済的・観光的資源となつて、農業・宿泊施設・飲食業等に活路を見出している。地場産は、久美浜の牡蠣、ブランド京丹後梨、砂丘農業、果樹栽培、米も広く知られる。市行政やまちづくり団体も若い企業者を支援し、産業間を結び、誘客・販路拡大・技術支援に通じた事業を立ち上げている。



### ▶コロナ禍で参拝する人々の意識の変化

コロナ禍は人間がもたらした様々な環境問題の結果である。人類の知恵で、これを押しとどめる事が出来るかどうかの正念場だ。と語られた。

### ＜久美浜湾での活発なスポーツ教育について＞

久美浜湾は穏やかな内海で、1988年京都国体でのカヌー競技開催の地として漕艇場が整備された。

（公財）京都府スポーツ協会 常務理事・事務局長の坂東美紀様からお話を頂いた。大学時代にカヌー競技に出会い、選手として世界を相手に活躍後、久美浜高校の保健体育教師として赴任された。国体開催に先駆けてカヌー部を設立し、カヌー競技の啓蒙と教育に26年間尽力され、強豪校に育てた。当時同校の英語教諭だった友松住職は、副顧問として共に活動を支えられた。

### ▶この地でカヌーを継続させる為には

国体終了後、漁業組合から「もうええやろ・・・」と言われた。生活の糧である漁場を双方でどの様に共有するのか？自然を守り、地域住民の継続する生活との共生と信頼が大切であると気が付いた。

現在も久美浜高校カヌー部の教員が指導者の中心となり、広い年齢層の青少年を対象にカヌー競技を通じて人間形成の場としている。

### ▶次の世代に引き継ぐ

都市部の大学に進学し競技を続けた部員が、教員となり母校のカヌー部指導者になる人が複数生まれ、バトンはしっかりと受け継がれている。



### ▶生涯スポーツの国際総合競技大会開催地として

「ワールドマスターズゲームズ関西2022」開催地。京都市内から練習に訪れる人達が生涯スポーツとしてのカヌーに真剣に取り組む姿は、指導者や学生を始め地元住民への良い刺激になっている。

## ＜伊根浦公園・舟屋ガイドツアー＞



伊根町観光協会局長吉田晃彦様に舟屋を案内して頂き、持続可能な海との共生についてお話を伺った。



### ▶伊根湾と人々の営みの歴史

舟屋とは海に面して一階が舟置き場、2階が倉庫。住まいは道を隔てた山側に建つ。伊根湾では潮の干満差が小さい事と、入口の小さな島が防波堤の役割を果たす事、これらの自然条件によって1700年代後半から舟屋が建てられ始めた。

### ▶湾と漁業

舟屋が現在まで続いてきたのは、伊根の住民の生活の糧が漁業だった事による。舟屋は、船や漁具を格納するだけでなく、手入れや魚の処理等が海の傍で出来るのが優れた機能。廃棄物は鳥や魚のえさとなり循環型の生活が営まれている。

### ▶舟屋の景観保護対策

平成17年、漁村集落としては初めて国より重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた。建物の外観の色や素材が決められ修復時には80%の補助が出る事によって街並みが保たれている。

### ▶自然と環境の調和について

明治31年の魚付き保安林指定で山の環境が保全され海の環境が守られている。漁礁の確保や稚魚・稚貝の放流を実施。漁法も敢えて効率の良い方法を取らず資源が枯渇しないよう努力している。

### ▶若い人々の仕事

行政の取り組みも有り、漁業への就労希望者が増え観光客の増加で釣り船や民宿の開業も増えた。

### ▶観光について

毎年30万人近い観光客。コロナ禍で外国人はほぼ0になり、日本人観光客と、車利用者が増加。

### ▶次の世代への伝承

小・中学校の道徳の授業「伊根ふるさと学」で、それぞれの学齢期から地域の事を学び、誇りを持ち胸を張って卒業して行く。子供達はいつか伊根町に戻って来たいとの想いを作文に書いている。

### ▶今後の有り方

産業や社会が変化しても人の本質は変わらない。先人の知恵を受け継ぎ、これまで培ってきた地域生活を継続することに尽きると思う。

## ＜向井酒造株式会社 杜氏 向井久仁子様＞

コロナ禍と、お酒の仕込み中でお店は一時閉店の為、湾に浮かぶはしけの上でお話を伺った。伊根町の向井家の歴史や位置づけ、後継ぎとして育ち反発の中、大学で醸造学を学び、女性杜氏として新しい酒造りを始めた歴史等を語られた。学校の出前授業で「初めは伊根に戻る子供は0でも、授業が終わる頃には戻りたいという言葉が出るのが嬉しい。」と話された。



### ▶取材を終えて

豊穡の海を守り共に生きてきた人々。脈々と続く生活の基盤は、SDGsの取り組みその物と感じました。

## 「森の京都」美山 山里で過ごす安心感と特別感

取材メンバー：田中 田鶴子・岡野 路子・高木 清子・山科 昌子・奥谷 かをる

実施日：2020年11月4日 文：奥谷 かをる

京都府は面積の75%を森林が占めています。

とりわけ中部地域（亀岡市、南丹市、京丹波町、福知山市、綾部市、京都市右京区京北）は森の恵みが大変豊かなエリアです。京都の文化を支えてきた人と森のかかわりを次世代に引き継ぐ取り組みが行われています。

今回取材研修に訪れたのは南丹市美山町です。



### ▶美山ってどんな場所？

京都府のほぼ中央、京都市内から車で約1時間40分の位置にあります。園部・八木・日吉・美山4町が合併し今は南丹市となりました。南丹市の面積は淡路島とほぼ同じ、その半分以上が美山町です。一方、人口は南丹市全体の約1割、3,000人程です。



### 美山の見どころ

#### ▶美景：かやぶきの里

茅葺屋根の民家が39棟、築150～200年、フォトジェニックな観光スポットです。今も実際に人々が生活し、暮らしの中で伝統や景観を守る努力をされているのです。後世に引き継ぎ持続可能な暮らしを、まさにSDGsを学ぶのに格好の場所です。案内をしてくださったのは元教師で茅葺屋根に住まいされている中野愛子さんです。



#### ▶コロナゼロ 人の少ない場所

コロナ前、7割は外国人観光客で台湾からの人が目立ったそうです。コロナ禍でも野外で感染リスクを抑えつつ楽しめると、年配者、車椅子の方、子供連れなどに人気があり、美山町で感染者がでていないこと、「人の少ない場所」として人気はさらにあるそうです。今季は中止でしたが、防火放水銃を年2回点検する一斉放水は有名です。この放水銃は国の重要伝統建造物群保存地区に選定された当初からの構想であったと伺い、美山住民の防火管理意識の高さと行動力に感じました。茅の葺き替えサイクルは20～25年、費用は1棟4面で800万円、補助があるとはいえ高額な自己負担を助け維持する為に2020年4月からは駐車料金を戴くことにしたのだと語られました。里の保全を今までなんとか地域自力でと全力で尽くし続けてこられたことが感じられました。

#### ▶立ち寄りスポット：美山民俗資料館

里内にある約200年前の農家住宅を復元した資料館で、薬草茶を美味しく戴き散策の息をつきました。美山で摘まれた山野草7種（美山茶・どくだみ・くまざさ・柿の葉・よもぎ・すぎな・おおばこ）が入っています。

#### ▶立ち寄りスポット：かやぶき美術館

かやぶきの里から少し離れた所にあり、築150年の古民家

を改修、職員の黒田さんによると、ゆったりとした開放した安心な環境で斬新な作品展示を楽しめるのがアピール点と語られました。SETSUKO TORIIさんのニット作品とtipura studioの鉄線作品展示会が行われていました。美山での意外な出会いと発見でした。

#### ▶美食：枕川楼(ちんせんろう)

夏の鮎、秋の松茸、冬の猪、自然の恵み豊かな美山は、美食の宝庫です。女将の長野綾子さんによると、例年のような団体客は望めない中ですが、美山の住人は一人もコロナ感染者がなく、自治協力のお陰で安心して商売ができる、また、由良川の源流である美山川は、芦生(あしう)原生林の湧水から流れ来ている。自然の恵みは森と水からもたらされていることを忘れてはならない、と語られました。



森と海をむすぶ川、人は里山に住み、そして人はそのつながりの中で在り方を考えなければならないことを再認識しました。

美景・美食につづく美山の楽しみといえば、お買い物！

#### ▶立ち寄りスポット：大石酒造



名水を求めて2014年に酒蔵を亀岡市から移設されました。社員の岡崎知史さんによりますと、目の前に広がるたんぼで取れる美山米を使って醸造されています。また「瓶」を使っていることは再利用可能であるので地球環境を考えても続けたいと語られました。お買い物もできます。

#### ▶立ち寄りスポット：おもしろ農民倶楽部

注目は「ジビエ」♪。ヘルシーで栄養価も高くブームとなっています。鹿肉・猪肉や燻製に使う木炭に至るまで美山町と近隣のものを使い、すべて『無添加』のハム・ベーコン・ソーセージのお店です。

代表の外田洋一さんにお話を伺いました。同じ地域の兄の養鶏場からの鶏肉・卵を使用し、自分がその加工、販売をしている。生産・加工・販売と、フードマイレージを減らすことに取り組んでいる。また、年老いて卵を産まなくなった「ひねどり」は肉質が硬く以前は廃棄処分していたが、ペットフードへの活路を見出したとのこと。平飼卵は人気の為、品薄でした。次回はぜひ購入したいものです。



#### ▶立ち寄りスポット：ふらっと美山 道の駅

野菜、地卵、牛乳、プリンなどの地産品が目移りしてしまいます。品数豊富な午前中に立ち寄られることをお勧めいたします。森の京都エリアには他にもいくつもの道の駅があります。

#### ▶取材研修を終えて

美山町の人々には、自然美豊かな農山村地域としての役割と使命を感じました。

その根本に息づくのが「かやぶきの里憲章」です。

- (1)空き家をださない
- (2)村内の美化と環境保全
- (3)来訪者に癒しを与える村づくり
- (4)住民の負担が過度にならない仕組みをつくる
- (5)保存会活動を強化する。

この「かやぶきの里憲章」の実現こそが、美山町のSDGsの取り組みなのです。国連によるグローバルゴールを、どのように地域に展開するのかと当初、思っておりましたが、ここ美山では、取材した町民一人一人が行動し、活性化と安心して生活できるまちづくりに取り組んでいらっしゃいました。今回の取材研修を通して具体的事例を知ること、SDGsをより身近に感じる事が出来ました。

# 「お茶の京都」宇治茶の郷 和東 生業(なりわい)の景観

取材メンバー：田中 田鶴子・高木 清子・山科 昌子・西村 温子・梅谷 康子  
 実施日：2020年11月25日 文：梅谷 康子

800年の歴史を未来へつなぐ『茶源郷』の過去・現在・未来について、NPO法人「和東ティー・フレンズ」さんに案内と取材をお願いしました。理事長の松石三重子さんは、日本茶インストラクターとして国内のみならず海外でも日本茶の魅力伝える活動をされています。



## ▶和東のお茶の歴史について

鎌倉時代に栽培を始め、当時は禅寺の修行に飲用されたと伝わっており、明治初期から海外にも輸出されていました。江戸時代に皇室領となり、京都御所に納めていた歴史があり、信用というものを村全体で守り続け、大切にすることを第一としている。共同製茶工場の設立など、機械製茶でも品質を低下させない技術研鑽により量産を進めてきた。(宇治茶の4割弱を生産する主産地)



## ▶和東のお茶産業の今の状況について

茶農家が約300件(人口4000人弱)ご多分に漏れず高齢化でメインは60~70代。若い人は少ないが、収益が上がるので農作業に従事する人を雇うことができる。(1~2人のバイトや通年作業員など)今は、40~50代の跡継ぎが育ってきている。いいお茶を作るためには、お茶の肥培管理が大切である。(お茶の声を聞き、お茶と話をすると例えら

れる)経験がないとできない仕事ではあるが、新しい取組みも必要とされている。研究熱心で、肥料の配合の研究や、リスク分散のための多品種栽培なども手掛けている。

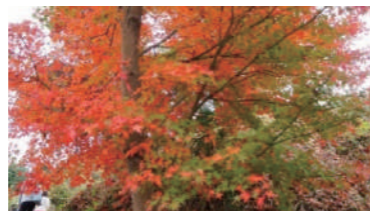


## ▶未来に向けて新しく取組まれていること

「良い農業のやり方」(Good Agricultural Practice)に取り組んでいます。生産者自身が農業生産活動の各工程において、点検、改善を行い、茶生産の安心・安全、農業労働事故の防止、環境にやさしい茶業、安定的な経営を実現することで、農業経営を守り、持続的な発展に導く取組みです。(まさにSDGsの持続可能な営みです)お茶はブレンドが基本で、味・香り・色を楽しめるようにしているが、「シングルオリジン」と呼ばれる単品のお茶も販売している。清々しい冷涼な空気と昼夜間の温度差が大きいこと、和東川と豊かな森林があり霧が立ちやすくこの霧が茶葉を包んでお茶のうまみを引出している。何よりもこの豊かな自然を守り続けていくことを大切にしている。



お昼は「和東荘」で季節感たっぷりの懐石料理をいただきました



急な坂道を登った天空カフェ(高台寺の茶室・傘亭をモチーフ)



「京都府景観資産登録第1号」指定の美しい茶畑風景が一望できる

## ▶急須でいれるお茶の講習

お茶のいい香りが立ち上って(お湯を注いだらかき混ぜてはいけません!)



## ▶今コロナの時代にアピールしたいこと

今だからこそ、お茶の成分の効能、効果を知って、お茶を飲んで健康な生活をして欲しい。平安時代に、空也上人が疫病退散に大福茶を広めたという故事も残っています。日常茶飯事と言われるように、お茶を楽しむ文化を広めたい。のどが乾いたらペットボトルのお茶でもいいですが、心が乾いたら急須でお茶を入れて、お茶を注ぐ間合い、香りを味わうゆとりを楽しんでおいしく飲んでください。

## ▶石寺の茶畑

茶畑と民家が隣接する「生業(なりわい)の景観」~京都府景観資産登録第一号~



## ▶木の坪茶室企画・製作 京都工芸繊維大学

中は結構広がりがあります。



## ▶NPO法人「日本で最も美しい村」連合加盟町村

日本で最も美しい村として登録されている和東



## ▶取材を終えて

今更持続可能と言わなくても、それは1000年も前から続けてきていること。その心が引き継がれています。後継者不足も心配される中、和東ティー・フレンズさんは、嫁姑で活躍されています。お嫁さんがこの仕事に興味を持たれた一番の理由が、「お母さんがとても楽しそうにインストラクターの仕事をしていたから」とのこと。楽しく息の合った対応をしていただきました。

## 「竹の京都」 竹の里乙訓でサステナブルを体験

取材メンバー：田中 田鶴子・湯川 美栄子・山科 昌子・奥谷 かをる・西村 温子・藤田 美代子・神田 尚子  
 実施日：2020年11月13日 文：神田 尚子

日本を代表するブランド食材である“京たけのこ”。長岡京市を含む乙訓地方のたけのこが、最高品質を誇るのは西山連邦のおかげです。北西の季節風が弱められ孟宗竹（もうそうちく）の根本が揺れずに根痛みが少ないこと、たけのこ畑が傾斜地で水捌けがよく酸性の粘土質の土がたけのこに合っていることがあげられます。乙訓地方の「京都式軟化栽培法」の特徴は、親竹の先を止めること、敷き草、土入れを施すことで、竹林は「たけのこを作る畑」という感覚で年間を通して丁寧に手入れを行います。TVでは嵐の相葉雅紀さんがこちらの竹林のたけのこを料理番組で取り上げました。50年近くおいしい竹の子を栽培している湯川周子さんを訪ね、土入れから収穫までの工程を学びました。11月はちょうど敷きわら・土入れの時期でその作業の様子も見学しました。



たけのこの成長には適度な太陽光が必要であるため、竹の背が高く伸びすぎないように成長を止めます。これは「芯どめ」と言い、収穫の終わった5月中頃から6月中頃に行われ、職人技で竹を揺らし先端部分を折ってしまします。また、竹にも寿命があり5、6年ほどで竹の子を産まなくなります。定期的に竹の入れ替えをするために竹には年齢が書かれています。1年目は株に皮が残るのですぐにわかります。親竹の更新、古竹の伐採は9月10月に行われます。ワラが敷き詰められた「たけのこ畑」に、土を重ねてふかふかの毛布がかかっているかのようになります。土は写真のとおり竹林の中の小高い場所のものを削り出して、低い部分にかぶせ、竹林内で使いまわしをします。



土入れ



土の上に敷き草



竹ほうき



たけのこ畑

### ▶たけのこ畑のコロナの影響

湯川さんのたけのこは毎年決まった個人との取引のみで料亭などの会社を対象としていない為、コロナの影響はほぼゼロであったということでした。

### ▶SDGsの観点から

土という素材を無駄にしない、竹は余すことなく竹ほうきや器など様々な用途で使われるなど循環型農業を確認しました。

### ▶たけのこ作りの一年

- 3月中頃から5月 竹の子掘り
- 5月上旬 親竹の選定
- 5月6月 肥料入れ 親竹の芯どめ
- 9月10月 肥料と間引き(古株の伐採)
- 11月12月 わら敷・草敷き・土入れ

### ▶柳谷観音 楊谷寺

806年平安時代より天皇家、公家の方々をはじめ、1200年続く信仰と伝統は、山深い自然に守られ、時代を超えて今ここに息づいています。清水寺を開山した延鎮僧都が夢のお告げにより西山に入り観音様を見つけられました。

811年空海がたびたび参詣された際に眼のつぶれた子猿の顔を洗っている猿の親子を発見。祈禱をほどこしたところ、子猿の目が治癒したことから、眼病に悩む人々の祈願所として信仰されていきました。

近年は眼（がん）という言葉にかけて癌封じの祈禱をする人も増えています。独鈷水（おこうずい）は、弘法大師祈禱霊水として昔皇室にも献上されていました。その不思議な力を是非体感ください。



1200年の歴史が息づく 祈りと信仰の聖地  
 独鈷水（おこうずい）

### ▶観光スポットとして

上書院／書院／浄土荘三層に分かれ景色は古都百庭にも選ばれています。11月13日は紅葉の見頃。奥深い山中にあることから、見事に山全体が赤くなります。明治時代の建物で当時は特別なお客様だけが許された上書院の空の眺めはとて素晴らしく四季折々の美しい自然の美を楽しむことができます。



### ▶五感で感じる花手水と心琴窟

花手水は季節の草花を取り入れながら、歴史と四季を感じられる聖地にしたいという思いで5年ほど前まえより始めたところ、インスタ映えで人気沸騰となりました。いまでは全国の神社でもみられます。本堂の裏にある水琴窟は心琴窟と呼ばれ、耳から聞こえる小さな水の音は心が洗われるような清々しい優しい音でした。



### ▶参拝客のコロナの影響

最寄駅がバスしかなく、観光名所としては穴場でインバウンドの観光客も当初から多くはなかった為、コロナ禍においてもあまり大きなダメージがないというお話でした。草花を御朱印にあしらって世界に1つだけのオリジナルを作るイベントは人数制限を設けて開催されています。

### ▶SDGsの観点から

地域の皆さまを大切に住みやすい街づくりをこころがけ、地域経済の発展の為近隣のスポットとも連携して創意工夫をされておられる様子が伺えました。SNSで話題沸騰の裏には携わる皆様のサステナブル精神を感じる事ができました。